

平成 27 年度事業常任委員会視察報告会要点記録

- ・日時 平成 27 年 12 月 14 日
- ・場所 第 1 委員会室
- ・会議時間 15:40～16:17
- ・出席者 委員長 岡林 憲二
副委員長 金子 拓矢
稲田 悦治
井上 博
今口 千代子
岩崎 雅秋
烏野 隆生
米田 貴志 (五十音順)

1. 視察先：津山市

テーマ：観光振興の民間と行政の取り組みについて

日時：10 月 22 日 木曜日 13 時 30 分から 15 時 30 分まで

津山市の取り組み

- ・津山市は、肉食が禁止されていた明治以前でも全国でも稀な「養生喰い」の本場であり、健康の為、薬として肉食が行われている伝統があった。
- ・市内に食肉処理場がありホルモンを鮮度の高いままで流通させることが出来る。
- ・平成 17 年に行われた岡山国体で津山市はいくつかのスポーツ、取り分け柔道は全種目が行われることになり、それら競技者へのおもてなし料理として取り上げたのが始まりである。また、国体翌年には津山市出身の B'z の稲葉浩志氏にちなんだ「B'z コピーバンドコンテスト」が行われ、そこでも「ホルモンうどん」の PR を行っている。
その後、折しも B-1 グランプリに代表されるグルメブームが到来する。そこへ出場し三位を獲得したことが、津山の名を全国に知らしめることの出来た最大の要因である。
- ・当初は国体の担当職員と市民数名で「津山ホルモンうどんマップ」作成から始まったが、今では「津山ホルモンうどん研究会」なる組織となり会員数約百名になっている。
そのうち 70 名程は市職員有志である。また、上記研究会活動に公的資金援助はなく、協力店を募り自主財源でマップ作成等を行っている。
- ・平成 22 年度で岡山県内における経済波及効果は 22 億円、津山市内においては 12 億円とされている。
- ・市職員有志の熱い情熱が津山市を盛り上げている。
- ・市職員有志に頼る現状からの脱却が今後の課題である。

本市へのフィードバックとして

- ・本市においても名産品はあるが、上手くPR出来ていない。本市に縁のある著名人にもPRしてもらえるように働きかけも必要である。
- ・B級グルメを売り出すには名産品を絞り込めていない。
- ・情熱。本市職員も津山市職員の姿勢を見習うべきである。
- ・他の観光との結びつけが必要である。
- ・津山市は岡山国体という全国から人が訪れるチャンスを活かしたことから、本市もスポーツや農業、漁業等を活かした体験型ツーリズムを目指すべき。
- ・民間団体を巻き込み、この分野のリーダー育成が必要である。
- ・もはやグルメブームもなく、他市の後発事業にもなることから、本市がB級グルメを用いたまちおこしをするなら、ボランティア任せではなく本市施策に位置付けるべきである。

2. 視察先：玉野市

テーマ：ミッドナイト競輪事業について

日 時：10月23日 金曜日 午前10時から12時まで

玉野市の取り組み

- ・ミッドナイト競輪事業は、その制度上、開催すると赤字の要因になるFⅡレースを削減できる。しかも、他場借り上げ施行なら年間2節であるが、本場施行なら4節削減可能となるので、利益増に大きく影響する。
- ・ミッドナイト競輪を本場開催するのに照明設備等が必要であり、玉野市の場合、設備費用全体で約3億円であった。しかし、推計では2年程度で償却できるとしていた。
- ・玉野競輪場は海沿いにあり民家もなく、航行する漁船等に配慮するだけで良いというミッドナイト事業を行い易い環境にある。
- ・インターネット販売のみとなるため、新たなファン層として若年層も取り込める。
- ・玉野市も含めて6会場でミッドナイト競輪の本場開催が行われるが、今後増加する可能性もあり、将来的な収益減は予想される。
- ・現在のところ、他の公営競技と競合しない時間帯での開催なので、市場独占はできている。しかし、今後、オートレースやボートレースがミッドナイト事業に参入するという情報もあり、将来的な見通しは不透明である。

本市へのフィードバックとして

- ・市街地という立地から考えて本市競輪場では、ミッドナイト競輪の本場開催は困難である。他場の借り上げ施行で対応する他ない。
- ・来年から本市もミッドナイト競輪を借り上げ施行で行うが、今後の収益性から判断し本場開催も検討してはどうか。
- ・今後も競輪場経営は多難であることに変わりはない。従業員の雇用の為により長く経営できるように努力すべき。
- ・ミッドナイト競輪事業を行うには、総合的な施設の在り方から考えなおす必要がある。
- ・収益性から考えてミッドナイト競輪事業に取り組むべき。しかし、市街地の中に立地する本市競輪場では、その対応が困難であるので、例えば、阪南二区に移転するなども検討すべき。
- ・本市競輪場は収益性のより高いミッドナイト競輪の行える場所への移転ではなく、現地建替えを目指し進んでいる。競輪事業は今後の見通しが不透明とされており、出来る限りローコストな施設建設を目指すべき。

以上